

B10a 銀河系内天体におけるアマチュアとプロの連携

加藤太一 (京大理)

銀河系内の変動天体 (変光星) におけるアマチュアと研究者の連携の歴史は長く、アマチュアの発見した天体を研究者が詳しく調べる、あるいは研究者の提案する天体をアマチュアが追跡するなどの形で、国内・国外を問わず最先端の研究が数多くなされてきた。これらの活動は従来は食連星・脈動変光星・古典新星などの古典的な天体に対するものが多かったが、特にここ 10 年の期間は、桜井天体の発見、反復新星の発見と超軟 X 線源との関係、北天初の食のある SU UMa 型矮新星の発見、ブラックホール連星の想像を超えた活動の発見、矮新星 WZ Sge の驚くべきアウトバーストなど、突発天体の分野での活動が目覚ましく、天文学・天体物理学の歴史に長く刻まれるであろう成果の多くがアマチュアと研究者の連携によって産み出されてきたことは特筆に値する。

この成果の背景には最近急激に普及したインターネットによる迅速な情報伝達と、それを活用したアマチュアと研究者の日常的な連携活動 (VSNET など) が大きな役割を果たしている。また CCD の利用も広まり、従来の研究者の活動をも超えるような観測結果も産み出されている。多波長同時観測や未知の突発天体の解明、全天変動天体のサーベイなども含め、今後アマチュアの得意分野と研究者の活動の連携によって大きな成果が期待できる。しかしながら、教科書に記載もないような非古典的な天体における共同研究が盛んになったこともあり、研究者とアマチュアの望むことがらに若干の差異が生じ、アマチュアと研究者の連携形態も以前に比べて若干変化しつつあることも否定できない。本講演では、主に研究面に重点を置いて歴史的成果を概観するとともに、現在の連携の問題点や研究者からみたアマチュアへの情報提供のあり方なども議論したい。